

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

果樹カメムシ類の発生状況（技術情報第9号）について（送付）

果樹カメムシ類の発生状況および防除について下記のとおり取りまとめましたので、業務の参考に御活用ください。

記

果樹カメムシ類のヒノキ球果からの離脱時期を迎え、各地の予察灯誘殺数が増加しています。また、球果上の個体も依然多いことから、今後さらに球果上の個体が離脱し、果樹園への飛来が本格化すると考えられますので、園内見回りによる早期発見と発生初期の防除を徹底しましょう。

1 発生状況

- (1) チャバネアオカメムシの予察灯誘殺数は、合志市、宇城市、天草市で8月第4半旬以降に急増し、9月第1半旬の誘殺数は合志市で平年の約3倍、宇城市で約14倍、天草市で約3倍となっている（図1、2、3）。
- (2) ツヤアオカメムシの予察灯誘殺数は、地域でばらつきはあるものの、8月第5半旬以降増加しており、9月第1半旬の誘殺数は宇城市で平年の約10倍となっている（図1、2、3）。
- (3) ヒノキの球果に寄生している果樹カメムシ類の成幼虫数は、7月下旬まで平年並であったが、8月上旬以降は平年より多い状況となっている（図4）。
- (4) 果樹カメムシ類がヒノキ球果から離脱し果樹園に飛来する時期を迎えており（令和元年8月16日付け、病虫害発生予察技術情報第7号）、一部の果樹園では既に飛来が確認されている。

2 防除対策

- (1) 果樹カメムシ類の発生時期や飛来量は地域や園地による差が大きく、同一園内でも局在するため、園内をよく見回り早期発見に努め、発生初期に防除を行う。なお、山間部や山沿いの園では、発生量が多くなる場合があるので特に注意する。
- (2) 最新の果樹カメムシ類の予察灯・フェロモントラップ誘殺状況やヒノキ球果からの離脱時期等の情報は、病虫害防除所HP (<http://www.jpnpn.ne.jp/kumamoto/>)を参照する。
- (3) 果樹カメムシ類は日没直後になると園外から侵入し、翌朝飛び去るため、夕方や早朝の防除が有効である。
- (4) 合成ピレスロイド系殺虫剤の多用は、天敵等への影響が大きく、ハダニ類の発生を助長するので、最小限の使用にとどめる。
- (5) 薬剤の使用にあたっては、使用回数、濃度、使用量、使用時期を遵守するとともに、周辺作物への農薬飛散（ドリフト）に注意する。

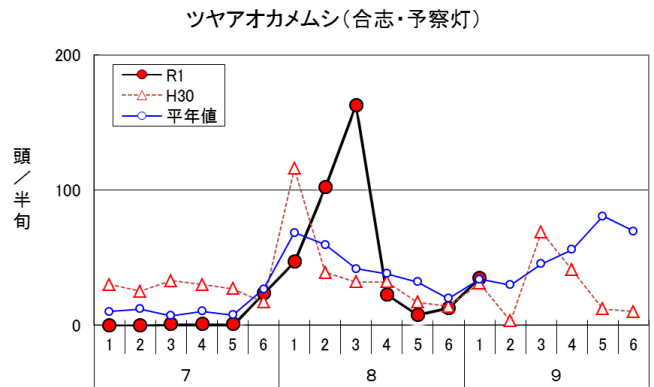
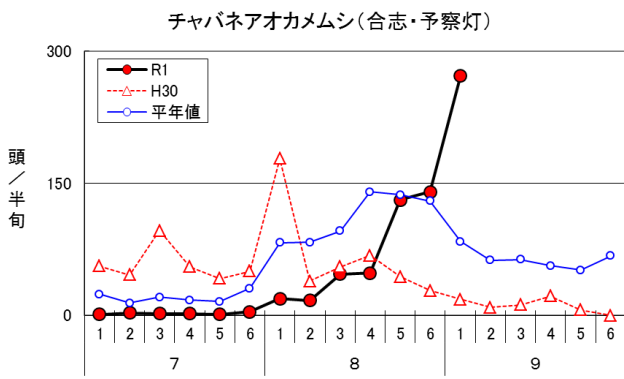


図1 合志市における果樹カメムシ類の誘殺数の推移（設置場所：農業研究センター）

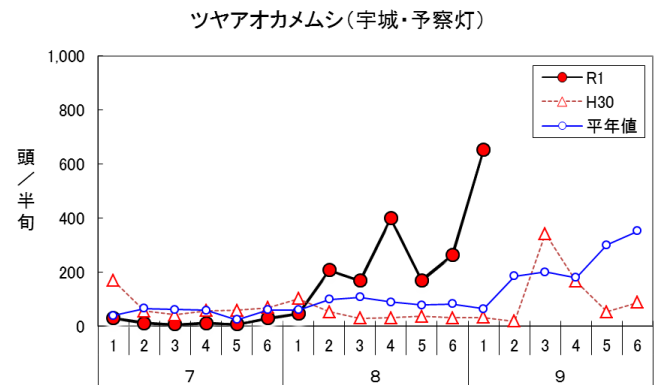
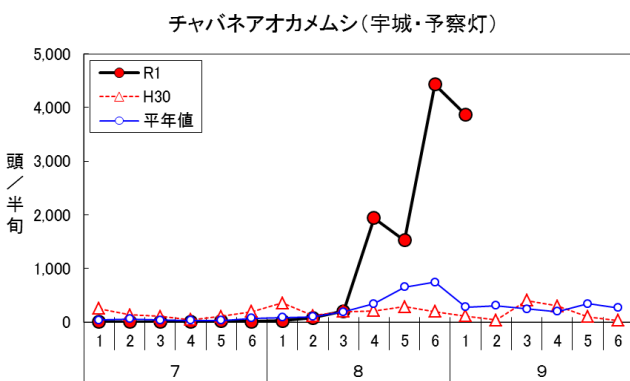


図2 宇城市における果樹カメムシ類の誘殺数の推移（設置場所：果樹研究所）

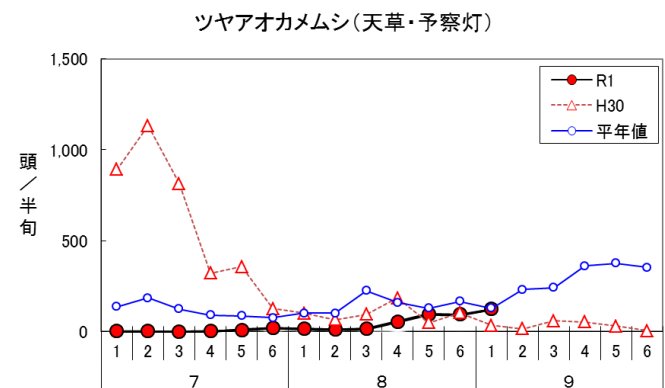
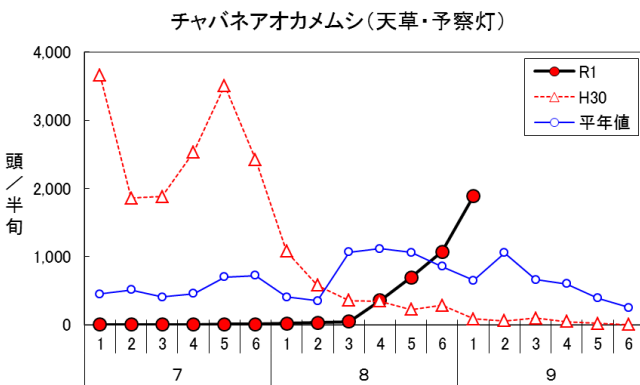


図3 天草市における果樹カメムシ類の誘殺数の推移（設置場所：天草農業研究所）

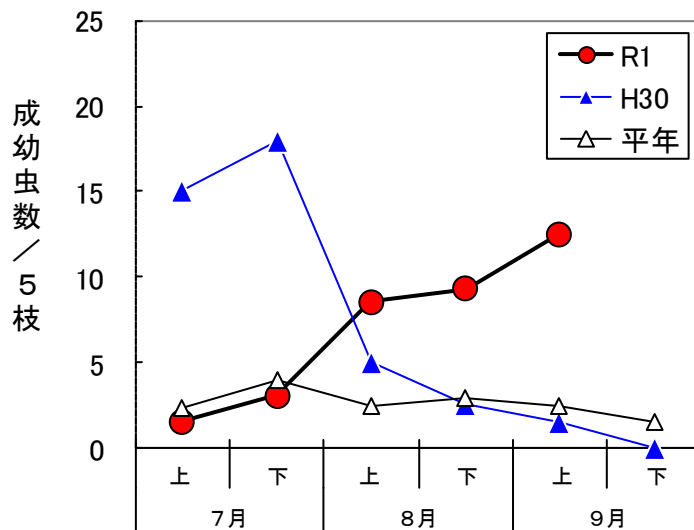


図4 ヒノキ球果に寄生する成幼虫数の推移  
 (熊本市、宇城市松橋町、宇城市三角町、合志市でのビーティング調査)

熊本県農業研究センター 生産環境研究所  
 病害虫研究室 予察指導係 (病害虫防除所)  
 担当：中村、斉藤 TEL : 096-248-6490